北信総合病院だより 臨時増刊号

2023.08.01
Special Edition

超高齢化、人口減に負けない

地域医療の未来

Building the Future of Rural Healthcare

「生まれた場所で学び、働き、老いる
選択を支えるために
北信総合病院ができること」

JA長野厚生連
北信総合病院

2023年6月、北信総合病院・荒井裕国統括院長は、3人の関連施設代表者と地域医療の未来について対談しました。その様子についてご紹介します。

取材・構成・文・写真：宇山恵子（東京医科歯科大学特任教授・医療ジャーナリスト）

超高齢化、少子化、人口減少に負けない！

北信の地域医療と、その未来に必要なこと

北信総合病院グループ

JA 長野厚生連 北信総合病院

統括院長 荒井（あらい） 裕国（ひろくに）

1982年東京医科歯科大学医学部卒業。医学博士。北信総合病院心臓血管外科部長、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科心臓血管外科学教授、日本冠動脈外科学会理事長、日本胸部外科学会会長、日本心臓血管外科学会理事、日本弁膜症学会会長、日本低侵襲心臓手術学会会長、他を歴任し、2022年から現職。東京医科歯科大学名誉教授。

北信総合病院老人保健施設もえぎ

施設長 下山（しもやま） 丈人（たけと）

1983年奈良県立医科大学医学部卒業。1987年同大学大学院修了。医学博士。奈良県立医科大学第2内科医員、輸血部助手、講師、志摩町国保前島病院副院長などを経て、2007年から現職。専門は血液内科。日本内科学会認定内科医、日本老年医学会老人保健施設管理認定医、日本血液学会専門医・指導医、日本医師会認定産業医。

JA 長野厚生連 北信総合病院

院長 山嵜（やまざき） 正志（まさし）

1990年信州大学医学部卒業。専門は脳神経内科。2023年、病院長に就任。他に脳神経内科部長、地域医療部長、認知症疾患医療センター長を兼務。日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会認定内科医、総合内科専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医、厚生労働省緩和ケア研修会修了、信州大学臨床教授。

北信総合病院付属北信州診療所

所長 曽根（そね） 進（すすむ）

1996年福井医科大学を卒業後、長野県、東京都などの病院に勤務しながら、内科や外科などの経験を積み、2003年から北信州診療所での勤務をスタートする。日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会、日本糖尿病学会。長野県飯山市北部並びにその周辺の地域医療の拠点となるべく、他の医療機関と連携をとりながら診療所を運営する。

社会構造の激変と共に医療ニーズも変わる。だから病院も変化に強くなる必要がある！

大自然の恵みの中で健康と安心を提供するには…

この4人で地域医療の未来について話し合おうと思い立った荒井統括院長にその理由を伺うと、

「**救急・災害拠点病院**として、また**高度医療を提供する総合病院**としての役割を担う**北信総合病院**の統括院長という立場から、地域医療の現状を見ていくうちに、超高齢社会のニーズに対応する**老人保健施設もえぎ**の役割、人口減が続く中で地域医療を支える**北信州診療所**の現状が、日本の**地域医療の『今の姿』**を伝え、そこに生じている問題を浮き彫りにして、さらに**問題解決のヒント**が見つかるのではないかと考えたからです」と説明します。

「私の前職は東京医科歯科大学病院の副病院長で、専門は心臓血管外科です。実は長野県厚生連の病院には、医者になって3年目に半年間ほど、佐久総合病院で研修医として、その後、1994年から2000年までの6年間を北信総合病院の胸部心臓血管外科（当時）の科長として勤務しました。私にとって北信総合病院は特別な場所です。豊かな自然に恵まれた美しい山々の景色、おいしい空気と水、果物、温泉…ここは素晴らしい土地です。2000年に東京医科歯科

大学医学部附属病院(当時)に戻る際に、いつかこの土地に移り住もうと心に決めて、2022年にそれが実現しました。心から嬉しく思っております。大学病院では22年間にわたり、最先端の心臓手術に携わってきましたが、**私にとっての医療の原点は北信にあります**」と病院と北信地方への思いを語る荒井統括院長。

これを聞いて**北信州診療所の曽根進所長**は、

「私は静岡県浜松市の出身で、東京都内の医学部に通っていました。1985年～1986年に放送されていたNHKの大河ドラマ『いのち』の主人公で三田佳子さんが熱演していた津軽出身の岩田未希という女性医師が**地域医療に取り組む姿に心を打たれた**ことが、今の道に進んだことに影響があります。

もうひとつは、その当時、古民家ブームで、妻と『将来は古民家暮らしがしたいね…』と夢を描いていたこともあり、木島平の美しい田園風景と飯山周辺に残る太い柱が印象的な古民家群に感動して、この地で医者として働くことを決意しました。自然には恵まれていますが、やはり冬の厳しい寒さと大雪ゆえに、この地を去る人が多く、**人口減少が止まらない状況**です」と話します。

さらに**老人保健施設もえぎの下山丈人施設長**は、

「荒井統括院長の姿は、『ビートたけしのTVタックル』で拝見していました。コロナ特集で出演されてワクチン問題などで話題になっていましたね(笑)。

私が施設長を務める老人保健施設もえぎは、家に帰って生活することを支援する**『在宅復帰』**を前提として食事・入浴・排せつなどの身体介護、医師・看護師による医療的管理、理学療法士などによるリハビリテーションなどを提供しています。入居期間も原則3か月となっていますが、いわゆる**老々介護の家庭**が多く、家に戻ってもしっかりと介護できる家族がいない…というのが大きな問題になっており、**長期間の入居を希望するケース**が増えています。また老健で働く**介護福祉士が不足**しているのも大きな問題です」と厳しい現状を説明します。

北信総合病院の山嵜正志院長は、

「私は北信総合病院に28年前、最初に赴任し、荒井先生にお会いしたときの写真を持っています(笑)。

現在の当院の状況は、**慢性的に入院ベッド不足**が続いています。またすでに始まっていて今後も増え続けると考えられる**超高齢者の誤嚥性肺炎、心不全、骨折**などの急性期診療にどう対応していくか…、さらにこれら疾患の緊急受診が増えると長期入院になりがちで、ベッドが不足する上に医師や看護スタッフへの負担が大きくなります。昨今の**燃料費や医薬・医療品の値上げ**も病院経営をひっ迫しており、来年から始まる**医師の働き方改革**によって、医師の仕事を他のスタッフにシフトする際の人件費もかかるようになります」と数々の難題を示します。

3人の話を聞き**荒井統括院長**は、

「どの施設から見ても、地域医療に明るい兆しが見えない、本当に困った状況ですね。急速に進んだ少子高齢社会への対策として子育て支援策などを講じていますが、効果が出始めるのは恐らく20年以上経ってからで、それまではこの状況が続くわけです。医療機関は民間企業と違って、物価高騰だから医療費を値上げする…というわけにはいきません。だからこそ、今求められるのは、**『変化に強い病院』**ではないかと考えています」と力説します。

北信総合病院

北信医療圏の基幹病院・中核病院として、高度医療機器・設備の整備による先進医療提供のための機能強化、臨床研修指定病院、災害拠点病院、救急告示病院、長野県災害派遣医療チーム指定病院、地域がん診療病院、周産期母子医療センター、リハビリテーション総合承認施設、人間ドック認定病院など数多くの指定・認定を受けている。

老人保健施設 もえぎ

1996年に中野市をはじめ近隣市町村の皆さまの要望と支援によって開設された介護保険法に基づく介護老人保健施設。心や体の維持・回復を図り、在宅での生活を送るための支援が必要である高齢者に対して、施設サービス計画を作成して、看護・医学的管理の下にリハビリテーションや介護などを行う。

北信州診療所

飯山市北部の太田地区にある、北信総合病院附属の診療所。地域に根ざした身近な診療所として、治療・予防・生活指導・医療相談を行い、住民の皆さまの健康増進と末永く元気に暮らせる社会づくりを支える。一般内科を中心に、急性期疾患の初期診療、慢性疾患管理、健康予防活動、通院困難患者への在宅診療なども行う。

超高齢化と医療人材不足の次には
人口減少とダウンサイジング時代が来る
どう乗り越えるべきか…

この特集記事は**北信総合病院ホームページ**にも掲載されております。ホームページだけの特別記事や写真もありますので、スマホ等でＱＲコードを読み取り、ぜひご覧ください。

コロナの経験生かし救急医療、総合診療科、訪問診療に重点

荒井統括院長は「**変化に強い病院**」について、

「北信総合病院は地域住民を新型コロナウイルス感染症から守るために、この3年間、**臨機応変に変化**しながら闘ってきました。**発熱外来では15,000人以上**を診察し、**抗原・ＰＣＲ検査は合計で約50,000件です。**コロナ患者の受け入れについても、限られたベッドをやりくりしながら重点医療機関として最大30床の病床を確保し、**陽性患者及び疑い患者合計900人超を受け入れ**ました。ワクチン接種についても積極的に行い、地域住民のみならず、職員に対する接種も長野県で最も早く取り組んだことで欠勤者を抑え、**病院機能を維持**することができました。最も身近な地域への貢献として設置した**発熱コールセンター**での電話対応は月に1,000件を超えることもありました。電話対応には診療報酬は付かないので、全くのボランティアになりますが、大きな不安を抱えている発熱患者さんやそのご家族に対して、丁寧な対応をし、多く感謝の言葉をいただきました。コロナ感染症と闘うために**病院が『変化』することで、力を発揮し、地域に貢献**できました」と説明します。

3年間のコロナ感染症パンデミックにより、地域医療全体を視野に入れて必要な医療を提供するために柔軟に対応し、変化をいとわずに連携やネットワークを強化していくことの重要性が改めて認識されました。一方で、いわゆる「団塊の世代」800万人全員が75歳以上、つまり後期高齢者となる**2025年**は目前に迫っており、認知症高齢者数、高齢者世帯数、年間死亡者数が増加し、それに伴う医療費や介護費の増大が国家財政を圧迫することになります。

これに対して**山嵜院長**は、

「高齢者が増え続ける間は、医師の増員や設備の充実などが可能であれば、当院の成長拡大はまだ見込めます。理想的には**総合診療科を充実**させて、外来のみでなく病棟や訪問診療まで対応できれば開業医のパワー不足も補えるようになります。院内においても総合診療科と専門性の高い診療科の棲み分けをしてお互いの負担軽減ができます。さらに必要なのは、救急科とその専門医を配置して**救急医療を充実**させることです。そのような体制が整えば、当院を希望する研修医も増える可能性があり、医師不足も解消します。

次に別の視点から今後を考えると、生産年齢人口の減少はすでに始まっていて、介護職中心に人手不足となり

病棟が維持できなくなる可能性があります。**医師以外のスタッフに関しても、病院間での再配分集約化が必要**になることが予測されます。

2040年、ダウンサイジング未曾有の危機を乗り越える

さらに先を見ると**2040年問題**があります。これは高齢者を含めて全人口の減少が始まり、高齢者の割合のみが増加して、生産年齢人口が減り、必要な医療・介護・福祉サービスを提供できなくなる社会になることです。北信医療圏域は高齢化と人口流出がより進んでいるため、その状態は前倒しになる可能性が高いと思われます。その時に必要になるのは、**『ダウンサイジング』**です。高額の医療機器や大きな施設の維持は困難となり、短期的な方針とは逆行して、高度急性期・急性期を縮小しつつ、回復期や療養、さらにお看取りまで自前で対応することで同規模を維持する可能性も出てくるわけです」と説明します。つまり、たった15年で社会構造が大きく変革し、地域医療に必要な病院や施設の姿も大きく変貌していくのです。そして**2040年問題に最も近づいているのが北信医療圏域**だというわけです。

下山施設長は介護人材不足について、「介護人材不足は目を覆うばかりです。介護福祉士に就職する人材自身が大変少なく、どの施設やサービス事業者でも奪い合いの状況で、当施設に関して、昨年度は介護福祉士の募集に対しての応募はありませんでした。介護福祉士の人材の拡大は**高校での進路指導方針**から変えていただく必要があると考えます。その一方で、各施設においては、介護福祉士の採用ではなく、最初は介護助手で採用し、介護の現場で働きながら**介護福祉士を育てていく**方向性しかないように思います。介護助手の採用も難しいかもしれませんが…。

また、当施設は開設当初の1996年から勤務している40代後半の介護福祉士の割合が非常に高く、その職員が定年になる10年～15年後は非常に深刻な人材不足になることが予想されます。今から病院との人事交流を積極的に行うなどしてその対策をとることは必須と考えます」と介護の現場でもすでに人材不足が生じていることを説明します。

人口減少地域に残る人を守る医療はインフラと考えるべき

曽根所長も同様に、「70歳近い訪問介護のヘルパーさんが、90歳の要介護者の介護に毎日訪問しているケースも稀ではなくなりました。結婚しなかった中高年の長男と高齢の母親だけの二人暮らしという世帯も多い印象です。冬になれば6～8メートルの雪が積もり、**訪問診療に行くことさえも困難**になります。こんな状況から、この地域ではそう遠くない将来、**コミュニティー自体の維持が難しくなる**と思われます。しかし、そのような地域から出ていけない人はそこに残り続けますし、そのような人たちにも**医療は必要**なのです」と人口減少が進む様子について述べます。

荒井統括院長は今後の課題について、「高齢社会以上に『人口減少』という**社会のダウンサイジングこそが深刻な問題**で、北信地方がその最先端を進んでいるのであれば、全国に向けて**『地域創生の核となる病院のあるべき姿』**を見せられるようにこれからの地域医療を展開していかなければなりません。そのためにも**地域社会の医療ニーズを正しく理解**し、変化する物事の焦点を見極め、従来のやり方に囚われることなく行動することが重要ですね。そして国や県に対しても、私たち医療者の声を届ける必要があります。それが統括院長としての責務だと感じています」と話します。

北信地域の医療を担う

救急医療用ヘリポート

北信総合病院屋上にあるヘリポートは救急医療には欠かせない施設。急を要する患者さんの搬送時や災害時にも対応できる体制完備。

リハビリテーション室

老人保健施設もえぎには広々としたリハビリテーション室があり、自宅生活が送れるように理学療法や機能訓練などが行われる。

最新式の機械浴槽

老人保健施設もえぎにあるジャグジーが気持ちいいと評判の浴槽で、ベッドから浴槽へスムーズに移動でき、職員の負担も減。

畳の待合室

北信州診療所の和風の待合室は、利用者さんの憩いの場となっており、新聞を読んだり、談話しながら診察を待つ患者さんも多い。

訪問看護ステーション

北信州診療所隣接の訪問看護ステーションなかの きたしなのサテライト。豪雪地帯での訪問看護は厳しいが、利用者さんの笑顔に癒されるという。

この特集記事は**北信総合病院ホームページ**にも掲載されております。ホームページだけの特別記事や写真もありますので、スマホ等でＱＲコードを読み取り、ぜひご覧ください。

超高齢社会で医療は重要なインフラ。財源確保行政への働きかけ、他施設との連携強化を急ぐ

下山 丈人施設長

疑問を持ち考えて変えていく：実は「何も変えない」方が簡単で楽な方法なのですが、それでは発展も成長もできません。成長するためには変わらなければならないもので、変わるためには、常に「これでいいのか？」、「どうすれば改善できるか？」と疑問を持ち、考えることが大切だと思います。

曽根 進所長

生まれ育った地で穏やかに暮らすお手伝いができるよう今後も頑張ってまいります：私自身が北信州診療所の患者さんに接しているときに、いつも心の中でささやいている言葉です。これからも健康相談窓口として気軽にご利用ください。

山嵜 正志院長

自業自得：よく見る四文字熟語で、失敗して痛い目に遭ったときなどに用いられますが、失敗の結果を他人のせいにしたり、言い訳をすることなく、自分で自分を振り返り、反省する姿勢を持ち続けることが、自分を成長させるのではないかと思いますし、努力は報われるとも取れますので、大好きな言葉です。

荒井 裕国統括院長

絆（きずな）：座談会を通して、３施設の連携と絆が深まり、さらに良質の医療を提供できると思います。多職種連携、病院と周辺医療機関、地域社会、行政、医療従事者と患者、患者家族との絆…地域医療を取り巻く数々の絆がつながりあってこそ、この地域に求められる医療が実現できると確信しています。

急性期から在宅ケアまで幅広い医療ニーズに応えたい

病院の理想像について**荒井統括院長**は、「多くの診療科と高度医療機器を擁する当院は、国の地域医療構想の分類上は『多機能急性期病院』ですが、この地域には回復期や慢性期を診る病院が少なく、当院が回復期や慢性期の入院治療を行わねばなりません。診療所の数も限られているため、かかりつけ医としての機能も果たす必要があります。つまり地域から求められている実際の使命は、**『最先端の急性期医療から在宅ケアまで、さまざまなニーズに応じた幅広い医療を提供する病院』**なのです。これは必ずしも国策と合致するものではありませんが、地域の求める北信総合病院らしくあるためには、今まで以上に**地域の医師会や周辺医療機関、行政との連携を強く深めていく**ことが肝要で、地域ぐるみで地域医療構想に取り組んでいかねばなりません。

老人保健施設もえぎは、入院生活と自宅での生活の橋渡し役として、介護対象の高齢者のリハビリや機能訓練を行いながら短期入所やデイケアを行なって、地域に貢献しています。

北信州診療所は、地理的に本院から離れている飯山から新潟県境の栄村までの北信地方での最北端の地域の日常診療を担当し、高度医療が必要な患者さんの診療は本院とやりとりをしています。隣接する訪問看護ステーションなかのきたしなのサテライトとも連携して最北端豪雪地域の診療にあたっており、地域には欠くことのできない医療施設です。

このように北信地方の医療･保健･福祉を担い、住民に安心と健康を提供できるのは、**業態の異なる医療･介護施設が密接に連携する**ことで成立しているからで、どれか一つでも欠けてしまってはならないのです。

2025年問題、2040年問題と、地域医療には難題が山積みされており、その山をどう越えるかが大きな課題ですが、明るい兆しとなるアイデアはありませんか？」と呼びかけました。

医療ＤＸや施設建て替えで機能性、利便性の向上狙う

これに対して**山嵜院長は、**「オンライン診療やＡＩの導入など、医療分野における**デジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）**によって、医師不足対策や人口減少地域での新たな医療提供体制構築なども可能性があると思います。

また当院の南病棟、そして老人保健施設もえぎがそろそろ**建て替えの時期**で、超高齢社会、多死社会を見据えて、地域住民の医療ニーズの変化を予測して、それに対応できる施設づくりを進める必要があると思います」と話します。

さらに**下山施設長**もアイデアとして、「山嵜院長の言うとおり、当施設は建設後27年が来ようとしており、再構築の時期が近づいています。当施設の将来を考えると、北信総合病院が南病棟を建て替える時にでも当施設を病院の敷地内に移転し、**併設型の老健**となることが必須かと考えます。併設型となることで病院の医師が兼任することが可能となり、食事も病院の栄養科から提供していただければ食事の外部委託費用も不要となります。職員や機材なども**病院との共通化**を図ることで定員減や費用減に繋がることが予想されます。今のところ予定はありませんが、近い将来、**外国人スタッフの導入**も必要になるかもしれません」と説明します。

豪雪地域の医療を担う**曽根所長**は、「人口減少が進むなかで受診者を増やすことは困難ですし、診療日を減らすことは患者さんの利便性を大きく下げることになります。一般内科中心に、疾患にとらわれず急性期疾患等の初期治療、慢性疾患の外来診療、健康増進、予防活動を淡々と行なっています。また、訪問看護や介護サービススタッフとも連携して、在宅生活が円滑に進むように療養支援を行い、さらには通院困難な方への在宅診療も行なっています。診療所も開設して18年になるので、あちこち老朽化していますが、地域住民を一番明るくする言葉は、**『この診療所はずっと続けるよ』**というひと言だと思います」と話します。

３人の話を聞き**荒井統括院長**は最後に、「医療は、病院で完結するものではなく、特に高齢化の進む北信地方では、退院後ないし通院をしつつ、自宅での介護が必要な患者さんがたくさんいる。老人保健施設もえぎも、北信州診療所も、併設する訪問看護ステーションなかの きたしなのサテライトも、人々の暮らしを成り立たせるために果たしている役割は大きく、**地域社会の必要不可欠な医療インフラ**としての存在意義があります。

３施設を統括する立場として、今後、**行政への働きかけ**や、**財源確保、地域の医療機関との連携強化**を進めていく必要があることを改めて実感し、私自身も『変化に強いリーダー』であろうと心に誓いました」と述べました。

北信地域の医療を担う

中野市地域包括支援センター北信総合病院

北信総合病院に今年4月に開所。中野市地域包括支援センター北信総合病院は、住み慣れた地域で生活を継続することを支える機関。主任ケアマネージャー、社会福祉士、保健師が合的に支援する。

新型高規格救急車輌を配備

北信総合病院の救急医療を支える新型ドクターカーが今年2月に配備。大規模な災害が発生した際には災害派遣医療チーム（DMAT）の派遣にも使用される。

家族介護教室

老人保健施設もえぎでは、老人保健施設の役割として、在宅復帰・在宅支援があり、家での生活を支える家族が在宅介護を円滑にできるように定期的に実施している。

北信州診療所の駐車場

広々とした駐車場を完備しているが、通院困難な患者さんや利用者さんへの訪問診療や訪問看護も行なっている。

口腔衛生管理

老人保健施設もえぎでは2022年10月から、歯科衛生士による口腔衛生管理を開始。むし歯・歯周病、誤嚥性肺炎、心筋梗塞などの予防につなげる。

北信総合病院だより

北信総合病院の関連施設で今回の座談会に登場した施設をご紹介します。北信医療圏の医療ニーズに即した老人保健施設もえぎ、北信州診療所、そして3つの訪問看護ステーションです。

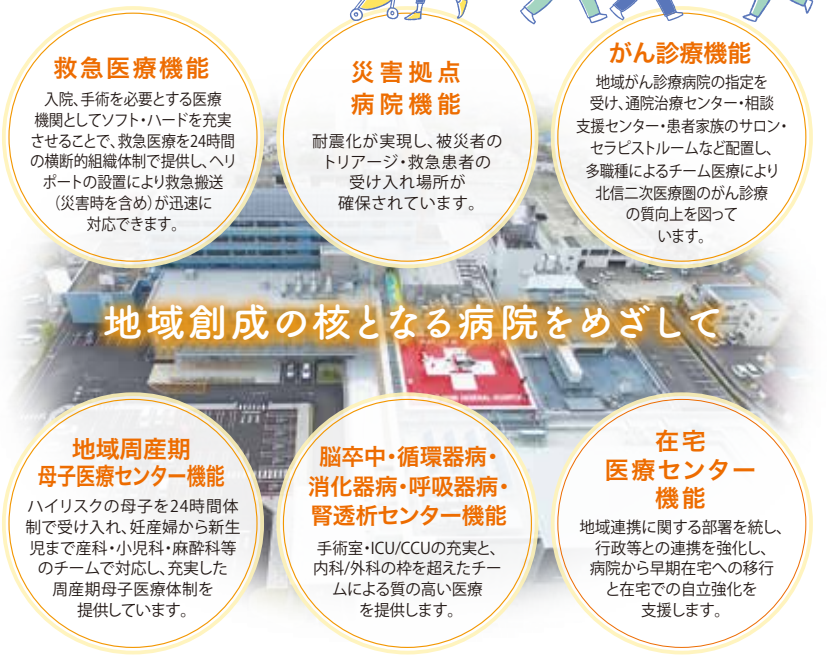
北信総合病院

（JA長野厚生連 北信総合病院）

当院では、地域創成の核となる病院をめざして、4つのコンセプトに基づき地域医療に取り組んでいます。

1. 北信地域の将来変化を含めた医療ニーズに対応する
2. 地域中核病院としての受け入れ態勢の確立
3. 北信医療圏の基幹病院としての機能をいかした地域創りへの貢献
4. 働きやすい環境の整備

【お問い合わせ】
〒383-8505
長野県中野市西1丁目5番63号
TEL：0269-22-2151（代表）
FAX：0269-22-2426



救急医療機能
入院、手術を必要とする医療機関としてソフト・ハードを充実させることで、救急医療を24時間の横断的組織体制で提供し、ヘリポートの設置により救急搬送（災害時を含め）が迅速に対応できます。

災害拠点病院機能
耐震化が実現し、被災者のトリアージ・救急患者の受け入れ場所が確保されています。

がん診療機能
地域がん診療病院の指定を受け、通院治療センター・相談支援センター・患者家族のサロン・セラピストルームなど配置し、多職種によるチーム医療により北信二次医療圏のがん診療の質向上を図っています。

地域周産期母子医療センター機能
ハイリスクの母子を24時間体制で受け入れ、妊産婦から新生児まで産科・小児科・麻酔科等のチームで対応し、充実した周産期母子医療体制を提供しています。

脳卒中・循環器病・消化器病・呼吸器病・腎透析センター機能
手術室・ICU/CCUの充実と、内科/外科の枠を超えたチームによる質の高い医療を提供します。

在宅医療センター機能
地域連携に関する部署を統し、行政等との連携を強化し、病院から早期在宅への移行と在宅での自立強化を支援します。

老人保健施設 もえぎ

当施設は介護保険法に基づく介護老人保健施設です。心や体の維持・回復を図り、在宅での生活を送るための支援が必要である高齢者に対して、施設サービス計画を作成して、看護・医学的管理の下にリハビリテーションや介護などを行います。当施設はご利用者の意思を尊重し、尊厳を守り、生活機能の維持・向上を目指して援助させていただきます。

【お問い合わせ】〒383-0015 長野県中野市大字吉田123-1
JA長野厚生連 北信総合病院　老人保健施設 もえぎ　TEL：0269-22-7800　FAX：0269-22-8585

北信州診療所

当院は飯山市北部の太田地区にある、北信総合病院附属の診療所です。地域に根ざした身近な診療所として、治療・予防・生活指導・医療相談を行い、住民の皆さまの健康増進と末永く元気に暮らせる社会づくりを支えます。さまざまな医療活動を真摯に取り組み、地域の皆さまにいつでも気軽に頼ってもらえる「健康よろず相談所」になりたいと考えております。

【お問い合わせ】〒389-2412 長野県飯山市常郷12-5
JA長野厚生連 北信総合病院附属 北信州診療所 TEL：0269-65-1200 FAX：0269-65-1211

訪問看護ステーションなかの
訪問看護ステーションせせらぎ
訪問看護ステーションなかの きたしなのサテライト

当ステーションは看護師、理学療法士、作業療法士などが患者さんのご自宅を訪問し、看護とリハビリテーションを行っています。ご家庭で療養されている方や、介護が必要な方、またそのご家族が不安なく毎日の生活が送れるよう取り組んでいます。

【お問い合わせ】
●訪問看護ステーションなかの
●訪問看護ステーションせせらぎ
〒383-8505 長野県中野市西1-5-63
（JA長野厚生連 北信総合病院地域医療福祉支援センター内）
TEL：0269-22-2151（代表） FAX：0269-23-3174
●訪問看護ステーションなかの
きたしなのサテライト
〒389-2412 長野県飯山市大字常郷28-1
TEL：0269-65-5255　FAX：0269-65-5256

北信総合病院だより 臨時増刊号
●発行日：令和5年8月1日発行
●編集：北信総合病院広報委員会
●発行人：荒井 裕国
●印刷：PO印刷株式会社